

# 江崎も再選も辛くも現学長

## 筑波学生新聞

編集・発行  
筑波大学学生新聞会  
代表 下田 征輝  
〒305 茨城県筑波学園郵便局  
私書箱29号  
TEL 0298-52-4460  
FAX 00360-9-31450  
無料

学長選速報

### 過半数の支持得られず

### 決選投票にもつれ込む

決選投票にまでもつれ込んだ二月一日の筑波大学学長選挙。辛くも江崎玲於奈氏(70)が逃げ切り、学長の座を守った。決選投票結果は江崎氏五四二票、北原保雄氏(現筑波大学附属図書館長)五〇五票。江崎氏側には予想以上の苦戦となった。

(池亀・吉村)



▲ 会見中に笑顔を見せる江崎学長

今回の学長選は、三月三十一日、選挙資格者である講師以上の在職教官一三八九人による第一次選挙(二名連記投票)を経て、候補者は上位五名に選ばれた。あらかじめ選挙資格者十人以上の推薦を受けた三名(江崎氏、北原氏・原田氏)は公示され、水面下で選挙活動が続けてきていたが、それ以外にも学内

在職中の教授は学長候補資格を有するため、一次候補には赤羽武博(土課程長)や森昭三(体育学部長)の名前も。第二次選挙は二月一日、第一次学長候補者五名のうち、一名に投票する。一位の候補者が過半数以上の票を得ていれば、晴れて次期学長となる。しかし今回、二次選挙で過半数を得ることのできた候

補者はゼロ。そこで学長選考規則に基づいて、第二次選挙上位二名により決選投票が行われ、江崎氏の勝利となった。評議会承認による再選決定後、記者会見に姿を現した江崎学長は、「これでまたカメラのフラッシュを浴びられます」とホッとされた表情で胸の内を語った。

第二次選挙で一六〇票だった江崎氏と北原氏の得票差が、決選投票で三七票差まで縮まったのは、反江崎派が少なからずいたことの結果だ。次の任期は二年。江崎学長の今後の大学運営方針が注目される。

桑原敏明氏(北原候補推薦者代表・教育学系教授)のコメント  
今回の学長選挙は開学以来初めてのいい選

挙だった。一部の新聞に学閥がどうのと書かれていたが、それは違う。(そうといった組織型選挙ではなく、一つには大学の在り方をめぐるフィロソフィのの違い(先端分野の成果重視の江崎対、基礎教育・基礎研究重視の北原・原田)、もう一つは経営のいろはを知らない江崎氏の大学運営の是非、この二つの焦点を中心に、個々の

選考規則改正後、初めての実施となった今回の学長選挙。新規則と前規則との最大の違いは、実質上学長を決定する第二次選挙の選挙資格者が拡大したこと。以前は筑波大学の最高議決機関である評議会に限定されていたものが、新しい規則では従来の第一

選考資格者と同様、「講師以上の在職教官」となった。実数では評議会員六〇人のうちの約二倍に増えた。この増えは、約一四〇〇人に決定権が委ねられることとなり、学長選挙の性質そのものが一変したことを示唆している。

選挙戦略的視点から見ると、学内政治

選考資格者が自らの価値判断に基づいた結果としての接戦だったのだと思う。ただ予想外ではなく、我々の方針を説いていく先々で多くの賛同を得られていた。かなり学長批判が強いだろうとよめてはいた。二年後、北原氏が有力な候補者になるかはわからないが、同様の主張をかかげる候補は出てくると思う。

今回の選挙中最も異様に感じられた点として、決選投票での「高投票率の維持」へのこだわりが指摘できる。学内放送に加え、事務職員を動員しての研究

室訪問告知。投票率の低い学系は事務官から嚴重注意を受けたとも伝えられている。これは、固定した反江崎派の腰の重さに危機感を感じた江崎氏が、「投票参加」へ半強制的に駆り立てたとする見方が一般的だ。このことから、江崎氏が浮動票に大きく依存していたことがうかがえる。江崎氏の意外な苦戦は、この浮動票層の江崎離れに端を発している。これからの二年間、江崎氏に課せられたことは、何よりも中を顧みること。片手間では甘くないのだ。

## 江崎有利は

### なぜ崩れたか?

執行部の離反と

末端教官の拒否

に開わりの薄い多くの末端教官が、浮動票層として大きな影響力を持つようになったことを意味する。従って、今回の選挙の鍵を握ったのは、各陣営の基盤となる組織票に加え、いかに多くの浮動票を取り込むかであったと言える。また、候補者に対して直接面識も利害関係もない有権者が増加したわけで、知名度の高い江崎氏に有利に働くと考えられていた。

予想以上の批判票が集まった。決選投票の末、三七票差での勝利。意外な結果と言われたが、それも仕方のないことだ。筑波大学は理系の勢力が大きい大学である。講師以上の人数を比較しても、文系四三〇人強に対して、理系五〇〇人あまり。医学系を理系として換算すればその数はゆうに七五〇人を越える。理系候補は圧倒的優位にあるのが現状だ。そう考えると、結局は勝利を収めた江崎氏だが、限りなく敗戦に近い勝利と言える。江崎氏はノ

ベル賞を受賞するほどの著名な研究者である。大学側としては江崎氏を学長とすることによって研究機関等との結び付きが強くなるというメリットがある。その反面、出張も多く、江崎氏は大学を留守がちであった。他の候補者は江崎氏のこのような面を指摘し、選挙戦を展開。選挙結果から考えて、この意見の賛同者は多数存在する。▼「中を見ろ」。今回の選挙結果はそう語っている。これからの二年間、江崎氏に課せられたことは、何よりも中を顧みること。片手間では甘くないのだ。

予想以上の批判票が集まった。決選投票の末、三七票差での勝利。意外な結果と言われたが、それも仕方のないことだ。筑波大学は理系の勢力が大きい大学である。講師以上の人数を比較しても、文系四三〇人強に対して、理系五〇〇人あまり。医学系を理系として換算すればその数はゆうに七五〇人を越える。理系候補は圧倒的優位にあるのが現状だ。そう考えると、結局は勝利を収めた江崎氏だが、限りなく敗戦に近い勝利と言える。江崎氏はノ

## 自主休講

予想以上の批判票が集まった。決選投票の末、三七票差での勝利。意外な結果と言われたが、それも仕方のないことだ。筑波大学は理系の勢力が大きい大学である。講師以上の人数を比較しても、文系四三〇人強に対して、理系五〇〇人あまり。医学系を理系として換算すればその数はゆうに七五〇人を越える。理系候補は圧倒的優位にあるのが現状だ。そう考えると、結局は勝利を収めた江崎氏だが、限りなく敗戦に近い勝利と言える。江崎氏はノ

# 江崎氏苦戦 批判まず執行部から

今回の江崎批判がまず執行部から起こったという背景には、学内要職ポストに対する江崎氏の「短命人事」がある。中央集権的な筑波大学のシステムでは、学長が大きな人事権限を握っているわけだが、江崎氏はそれを頻りに発動した。明確な落ち度がない人間に対しては、学長の意向が多からぬと、言わば「疑心暗鬼的に側近の不満が高まった。支持基盤を自ら切り崩していったわけだ。」江崎氏は経営のいるはを知らない」とされる由縁だ。学内運営の周縁部へ行くほど改革イメージの先行する江崎氏の人気が高まることは学生模擬選挙でも実証されている。しかし今回の場合、中央部の要職に

## 学内基盤失い 先行きに疑問

ある人物が反旗を翻すという形があまりにも明白だったため、周縁部の選挙資格者にもイメージによらない判断を促したと考えられる。また、理系重視、先端

た諸々の要素が重なった結果、江崎氏の苦戦につながった。それでも江崎氏が勝てたのは、「ノーベル賞学長」の対外的な有形無形の効果にやはり期待したためと思われる。全般的に、江崎体制の不安定さが、皮肉にも選挙本来の「個人が考える選挙」を実現した、学長選だったと言えよう。

### 本紙による模擬学長選

## れおな圧勝 学生人気揺るがず

大学院の充実、教育研究組織(主に学系)改編、国際的人材を養成するリベラルアーツ教育の推進をかかげる江崎体制の今後が注目される。ただ、批判票の持つ意味は大きく、また唯一四年間継続して副学長ポストにあった原田氏に最終的に「謀反」を起こされたことで、江崎執行部の基盤は一から作り直しとなったわけだ。ただ、江崎氏が残り二年間でどのような業績を残せるか、率直に言っ

て疑問だ。(池亀)

一月二十六日、本紙の主催により、「学生による模擬学長選挙」を実施した。対象となったのは、当日の昼休み(十一時二十五分～十二時十五分)に医学、体芸・一・二・三学の各食堂に居合わせた学生・院生約五〇〇人。投票はアンケート形式で行われ、現行の学長選挙規則にのっとり、一次選挙二名、二次選挙一名選択のシステムを同時に処理するため、二名の候補者を順位づけて選んでもらった。

投票 あなたが学長にふさわしいと思う者の記号を①の欄に、次にふさわしいと思う者の記号を②の欄にご記入下さい。

① ( ) ② ( )

- 学長候補者
- A, 江崎 玲於奈 (現学長)
  - B, 北原 保雄 (現附属図書館長)
  - C, 原田 宏 (現大学改革担当副学長)
  - D, その他 ( )
- 《学外学内を問わず、学長にふさわしいと思われる人物を一名》

▲あなたは誰に投票する？

第一次投票結果

江崎	玲於奈	390	票
原田	宏	139	票
北原	保雄	129	票
毛利	衛	108	票
椎貝	博美		票

(有効投票総数473)

結果は次の通り。

第二次投票結果

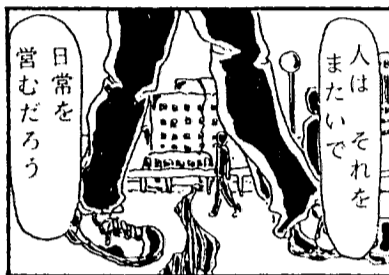
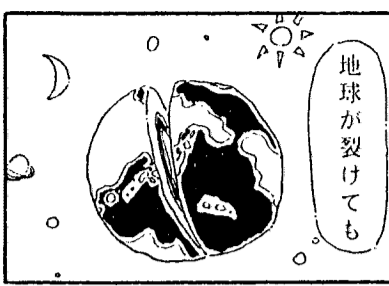
江崎	玲於奈	329	票
北原	保雄	40	票
原田	宏	27	票
毛利	衛	4	票
椎貝	博美	2	票

(有効投票総数473)

もの。結果は次のようになった。

よって学生投票による次期学長は江崎玲於奈氏に決定した。氏にはこの結果を踏まえて、学生生活の向上により一層励んでもらいたいものである。

またその他の意見に、「学長が変わることによってなんか変わるんか?」というシニカルなもの、「学生に投票権がないのはおかしい」「投票権がなくても、学生にも候補者の考えを伝える場を設けるべき」といった学長選に対する意識の高さがかがわされるものがあった。全体として不完全な選挙であったと自覚しているが、少なくとも学長選への関心を呼び起こすには役立ったと思う。(池亀)



ひとのめ 号外編 学長選

総評 図らずも学長の人気は、前回の模擬選挙で、江崎氏が学生の圧倒的支持を受ける理由は、氏

日本語強化月間 入選標語 (丸)んしゅうだ (お)前の日本語 (な)ってない

どんかつ弁当 **かつ大**

日曜：予約0分、当日0分、1時0分、2時0分、3時0分、4時0分、5時0分、6時0分、7時0分、8時0分、9時0分、10時0分、11時0分、12時0分

TEL: 0298-531-0000

丸亀ビル オオキビル 筑波大学

フルカラー デジタルコピー 1枚¥10 最新型ピクセル導入

RS 〒305 つくば市天久保3-9-6 (大木ビル1F、2F(大学会館ウラ)) TEL 0298(51)6293 FAX 0298(56)0280